

森林整備Ⅱ

現地実習（調査）

日時：平成23年10月23日（日） 10:00～15:00

講師：あいち海上の森センター職員・海上の森の会

概況



◎現地実習（調査）

1. 人工林の施業

- ・人工林とは → 人為による植栽林(スギ、ヒノキ等) ⇔ 天然林(自然林)
- ・森林施業

①造林

地ごしらえ(伐出後に林地に残された幹の先端部や枝、あるいは刈り払われた低木や草本などを、植栽しやすいように整理、配列すること) → 植栽位置、植栽密度を決定し、植栽する。

②下刈り

植栽木の生長を助けるために、草本類や他の樹種を刈る作業のこと。夏に高温多湿となる日本では陽性植物の繁茂が著しいため、植栽木の生存を保障し、生長を助け、形質劣化を防ぐために下刈りは必要不可欠。

③除伐

林分の混み過ぎを緩和し、形質のよい将来性のある木の生育条件をよくするために、目的樹種以外の侵入樹種を中心に、また、植栽木の内、形質の悪い木を除去する作業のこと。

④枝打ち

無節の良質材の生産を主目的として、枯れ枝やある高さまでの生き枝を、その付け根付近から除去する作業のこと。枝打ちの第一の目的は、無節の材の生産だが、それと同時に年輪幅の均一化など優れた材の生産にも効果がある。

⑤間伐

混み過ぎた森林を適正な密度で、健全な森林に導くために、また利用できる大きさに達した立木を徐々に収穫するために行う間引き作業のこと。間伐には、下層間伐（普通間伐）、上層間伐（樹冠間伐）、機械的間伐などがあり、選木の仕方によってそれぞれのタイプに分けられる。

⑥主伐

木材の収穫のために、伐期に達した成熟木を伐る作業のこと。

2. 間伐の考え方

・間伐の目的

①作業面：通直で完満な丸太の生産。

②環境面：光条件の改善。

・林分密度管理図の見方

①最多密度曲線 → 林冠閉鎖した過密林分の「成長」の軌跡

②自然枯死線 → シミュレートする林分の「成長」の軌跡

③等平均樹高線 → 間伐による「本数、材積の変化」の軌跡

④収量比数曲線(Ry) → 「Ryによる間伐計画」のための補助線

⑤等平均直径線 → 「平均胸高直径」を読み取るための補助線

3. 現地実習

①林分の標準地を設定(20 m×10 m)

②毎木調査(標準地内)

ア 番号付け

イ 測定(樹高(m)、胸高直径(cm))

③間伐木の選定(テープ巻き)

本数間伐率 30%以上を目標。

優良な木を中心に出来るだけ等間隔に残す。